



PHJ メールニュース 2011年3月号

送信日時： 2011年3月18日

ピープルズ・ホープ・ジャパン (PHJ) メールニュース読者の皆様

このたびの東北地方太平洋沖地震による大震災でお亡くなりになった方々に心よりお悔やみを申し上げます。また被害にあわれた皆様にお見舞い申し上げます。一日も早い復旧を祈念いたしております。

PHJ メールニュース 2011年3月号を配信いたします。PHJ メールニュースはPHJの活動を支援してくださっている皆様に本部、タイ、インドネシア、カンボジアでの活動をより広く深く知っていただくために毎月メールでご報告するものです。

このメールニュースは配信を希望するとの連絡を送っていただいた方々、PHJ 運営委員（オブザーバーとして出席されている方を含む）の方々、およびPHJを支援してくださっている方々にお送りしています。

PHJ メールニュース 3月号目次

1. PHJ 本部のニュース

- 1-1. 「東日本大震災」緊急支援募金をはじめました
- 1-2. タイ・カンボジア横断スタディツアーを実施しました
- 1-3. メールニュースのバックナンバーをホームページに公開しました
- 1-4. 「タイのAIDS予防教育と日本の現状」講演の報告
- 1-5. スタッフブログ

2. PHJ タイ事務所のニュース

- 2-1. 小児先天性心臓病手術
- 2-2. HIV/AIDS 予防教育

3. PHJ インドネシア事務所のニュース

- 3-1. 保健改善、母子健康改善活動 — テイルタヤサ自治区
- 3-2. 栄養改善活動 — テイルタヤサ自治区

4. PHJ カンボジア事務所のニュース

- 4-1. 保健センター運営向上、村とのネットワーク向上 - コンポントム州

4-2. PHJ 東京事務所の広報が現地でインタビュー

4-3. 「安全なお産」、あと 200 人分の支援を

.....

1. PHJ 本部のニュース

1-1. 「東日本大震災」緊急支援募金を行っています

3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震につきまして PHJ では、被災された皆様のお役に立ちたいという願いから、緊急支援募金を開始いたしました。集まった募金は被災地にいる多くの方々に医療支援が届くよう、社団法人 全日本病院協会*の災害対策本部を通じて被災会員病院の復旧支援等に使用させていただきます。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

【災害募金】 <http://www.ph-japan.org/supportPHJ/personal/donation.html>

*社団法人 全日本病院協会 <http://www.ajha.or.jp/>: 全国 2300 以上の民間病院で構成され、今回の被災地域には 218 の会員病院があります。PHJ は設立以来各種のご支援・ご協力を頂いています。

1-2. タイ・カンボジア横断スタディツアーを実施しました

東南アジアの医療環境や暮らしを実際に見て、触れて、国際協力について考えよう——こんな目的から 2009 年よりスタートした PHJ のスタディツアー。今年も 2 月 20 日から 8 日間の日程で実施し、一般公募で集まった 7 名の参加者(研修医、看護師、助産師などの医療関係者と学生)とともに、PHJ スタッフの石関と南部が PHJ の支援地域であるタイとカンボジアを訪問してきました。

PHJ のスタディツアーの特長はタイとカンボジアの医療現場を短い期間で比較できること。東南アジアの中でも国によってこれほど医療環境の違いがある、ということを目の当たりにしました。参加者の一人で研修医の山口恭平様より下記のメールを頂きましたので、引用いたします。

「非常に内容の濃い充実した 1 週間でした。タイでは中進国といわれるだけあって、当初予想していた以上に発展している印象を受けました。医学レベルにおいてもかなりのものがありますし、HIV 教育や子宮頸がん予防事業に関しては、日本よりはるかに進んでおり、参考にすべき点多々あると思います。また、仏教が地域に根ざしていることもあり人々は皆温厚で、人のため・社会のためというボランティア精神を垣間見れた気がします。

カンボジアではうって変わって、生活水準の低さ・衛生環境の劣悪さに驚きました。同じアジアの国同士であり、ましてや隣国であるのにこれほどまでに社会情勢が異なるものか

と・・・。トールスレン博物館見学や色々な方の話を聞くにつれカンボジアの今の状況が歴史の中でどのような意味合いを持つのか、少しずつイメージがつかめるようになりました。今回のツアー、一番のポイントである、村でのフィールドワークは非常にいい経験になりました。限られた時間の中で必要な情報を入手・分析し、対策を考える。国際保健分野に限らず、今後様々な分野で必要とされることだと思います。ツアーを通して、一医療従事者として今後、国際保健分野で貢献できればという思いがますます強くなりました。」以上です。

今回のスタディツアーの報告会なども予定しておりますので、ぜひご参加ください。

1-3. メールニュースのバックナンバーをホームページに公開しました

2010年1月に開始したメールニュースではPHJ 東京本部、タイ、インドネシア、カンボジア事務所の活動を毎月お知らせしてきました。より多くの方にPHJを知っていただくためにバックナンバーをホームページで公開しました。今後2ヶ月遅れでメールニュースを公開してまいります。<http://www.ph-japan.org/about/mailnews/index.html>

1-4. 「タイのエイズ予防教育と日本の現状」講演の報告

3月6日多摩市国際交流センター主催の国際理解講座でPHJの須見顧問が「タイのエイズ予防教育と日本の現状」について講演しました。「タイと日本の文化の違い」をエイズ教育を例に説明し、NPOの現状を詳しく話しました。多摩市はNPOに関心の多い人が多く25名の参加者は中高年が殆どだったためか、質問・意見はNPO（特に認定NPO）に集中し熱心な意見交換ができました。またアンケートにはエイズの話は若い人にこそ聞いてもらいたいとの声が多数ありました。

1-5. スタッフブログ

http://blog.livedoor.jp/ph_japan/

2. PHJ タイ事務所のニュース

2-1. 小児先天性心臓病手術

2月には3名（第一三共株式会社の支援で2名、エドワーズ社からの支援で1名）の心臓病手術が終わりました。1月10日から2月19日まで、チェンマイ大学病院の看護師3名をエドワーズ社、知立ロータリークラブからの支援で、バンコクで開催された「小児心臓病患者への看護コース」へ派遣しました。

2-2. HIV/AIDS 予防教育

スモールスケール活動として2月3日、5大学35名のピアリーダー教育を行いました。対象の学校もパヤップ・テクノロジー・ビジネス学校（PTB）、ピチットシブ学校にもひろげピア教育、展示、ゲームを実施しました。PTBではバレンタインイベントとして Condom 500 セットを配布。パヤップ大学若者コーナーの活動として2月12日にバレンタインイベントを実施しました。

3. PHJ インドネシア事務所のニュース

3-1. 保健改善、母子健康改善活動 — テイルタヤサ自治区

2月は1月に続き「妊娠の兆候」「難産の兆候」に加え「授乳」をテーマにしました。3ヶ月毎施の保健プロモーションは「口腔衛生」をテーマに実施しました。歯科医専門家が不在地域なので、歯科医や衛生士を怖がる風潮があります。自宅でのケアが大切になります。

3-2. 栄養改善活動 — テイルタヤサ自治区

3回目のメニューコンテストで提案されたメニューを普及する教育を3村で実施しました。コンテストに参加しなかった1村でも栄養バランスが大事であることなどの栄養教育を行いました。ヘルスボランティアの月例研修には国立栄養研修所の Widodo 氏を招き、栄養不良児の状態を回復させる「秘訣」をテーマにしました。不良児の母親は子育て放棄の傾向があり、周囲の励ましが大事であることを強調しました。

4. PHJ カンボジア事務所のニュース

4-1. 保健センター運営向上、村とのネットワーク向上 - コンポントム州

ヘルスセンター助産師2名が州病院産科で泊り込み研修。研修後の知識は100点中97,86点。PHJが行ってきた衛生モニタリングはヘルスセンターにハンドオーバーすることに決定し、順次移管してゆきます。保健ボランティア、伝統的産婆の月例会議で分娩時の搬送についてケースが増えていることなど良い報告もありましたが、料金トラブルもあり、保健センターごとに対応しています。11村で保健教育を実施。トピックは「栄養」と「産後健診」参加者は1村平均45名、全体494名でした。

4-2. PHJ 東京事務所の広報が現地でインタビュー

PHJ 東京事務所 広報の南部が2月28日から3月1日まで活動地域の村で保健センタースタッフ、ボランティア、お母さんなどにインタビューしました。「そもそもカンボジアの村ではどのような生活をしているの?」「PHJ の教育活動によって人々の意識にどのような変化があったの?」「今の課題は?」そんな疑問を解消すべく、村を歩き、現地の人のご自宅にお邪魔してお話を聞くことができました。環境や条件によって村ごとに貧しさのレベルがまるで違う—など現地を歩いて初めて知ることがたくさんありました。詳しくは順次ホームページやブログなどで紹介いたします。

4-3. 「安全なお産」、あと200人分の支援を

2010年春から始まった「安全なお産」支援募金。みなさまからの支援により保健センターでの妊婦健診・分娩奨励キットを4つの保健センターを配布。2月までに累計で妊婦検診キット500、分娩奨励キット462を妊産婦に贈ることができました。しかしまだ妊婦健診・分娩奨励キット200セット分(200人分)の支援が足りません。引き続き皆様のご支援をお願いいたします。

http://www.ph-japan.org/supportPHJ/personal/kikaku.html#jirei_02

□ ■ クリック募金にご協力ください!

イーココロ!クリック募金

ピープルズ・ホープ・ジャパンは募金サイト イーココロ!「クリックから世界が変わる、毎日無料

のできるいいこと」に参加しています。 <http://www.ekokoro.jp/ngo/195/>

PHJ メールニュース 2011年3月号を最後まで読んでいただきありがとうございます。
このメールニュースへのご意見、ご要望は info@ph-japan.org までお送りください。
次号の参考にさせていただきます。

またこのメールニュースの配信を希望されない方は info@ph-japan.org までメール
ニュース配信不要とご連絡ください。

発行者:

認定NPO法人

ピープルズ・ホープ・ジャパン

代表 木村 敏雄

広報 矢崎 祐子、南部 道子

〒180-8750

東京都武蔵野市中町 2-9-32

Tel:0422-52-5507 Fax:0422-52-7035

e-mail : info@ph-japan.org

URL: <http://www.ph-japan.org>

Copyright: 2011 ピープルズ・ホープ・ジャパン
